科目ナンバリング	U-LAS02 20023 LJ37						
授業科目名<英訳>	言語認知論 Language and Cognition			担当者所属職名・氏名	人間・環境学研究科 教授 谷口 一美		
群	人文・社会科学科目群	分野(分類)	芸術・文学・言語(各論)		使用言語	日本語	
旧群	A群	単位数	2単位	週コマ数	1コマ	授業形態	講義（対面授業科目）
開講年度・開講期	2026・前期	曜時限	木2	配当学年	2回生以上	対象学生	全学向

（総合人間学部の学生は，全学共通科目として履修登録できません。所属部局で履修登録してください。）

[授業の概要・目的]

認知言語学の観点から、ことばの意味の拡張・変化といった動的側面について考察することにより、言語と認知との相互作用への理解を深める。

[到達目標]

認知言語学の基礎知識を習得し、基本的な言語観を身につけるとともに、言語表現の的確な分析と説明を行う力を養う。

[授業計画と内容]

この授業では、ことばの意味や用法が変化し、言語システムの中に定着し取り込まれていく過程とメカニズムについて、認知言語学の観点から幅広く考察していく。授業では以下の内容を取り扱うが、受講生の関心に応じて調整する予定。

第1回 意味変化の要因：メタファー
第2回 意味変化の要因：メトニミー
第3回 慣習化された比喩
第4回 多義性と意味ネットワーク
第5回 イメージ・スキーマの導入
第6回 イメージ・スキーマと多義性
第7回 身体的経験に基づく意味拡張
第8回 空間概念に基づく意味拡張
第9回 使用基盤モデルの導入
第10回 使用基盤モデルによる意味拡張のメカニズム
第11回 文法構文にみられる用法の拡張：メタファー的拡張
第12回 文法構文にみられる用法の拡張：メトニミー的拡張
第13回 意味の漂白化と文法化
第14回 意味の語用論化と儀礼化
期末試験
第15回 フィードバック

[履修要件]

これまでに言語学関係の授業を履修していることが望ましい。

[成績評価の方法・観点]

学期末の筆記試験 (80%）と授業への参加状況 (20%）から、総合的に評価する。評価方法の詳細は、初回授業で説明する。

言語認知論(2)へ続く↓↓↓

言語認知論(2)

[教科書]

授業でプリントを配布する。

[参考書等]

（参考書）
谷口一美『学びのエクササイズ　認知言語学』（ひつじ書房）ISBN:978-4894762824

[授業外学修（予習・復習）等]

授業で課題が提示された場合は、事前に予習をし、次回の授業に臨むこと。

[その他（オフィスアワー等）]

教室定員を超過した場合には人数制限を行う可能性があります。

[主要授業科目（学部・学科名）]